

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス てあてるの芽富士		
○保護者評価実施期間	令和7年3月3日		～ 令和7年3月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和7年3月17日		～ 令和7年3月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童が自ら通所したいと思ってもらえる場所であること	職員一人ひとりが児童の特性を把握したうえで関わり、楽しく過ごせるよう配慮している。 支援中トラブルがあっても、帰る時には『楽しかった!』と思えるよう、働きかけを工夫している。	療育や遊びの幅を広げられるよう、内容の見直しや環境調整を図る。
2	公園やお店など、有効活用できる地域資源が近くにある。	天候や児童の様子に応じて、午前公園に出かけ、体を動かすなどして気持ちを発散できるようにしている。	公園だけでなく、お店に行き、買い物や外食の機会を設けていく。
3	児童はもちろん、保護者に対する支援に積極的である。	児童の様子だけでなく、保護者の状況の聞き取りを積極的に行い、気持ちの解消や課題解決の糸口をともに探すようにしている。	保護者だけでなく、きょうだい児の様子にも気を配るよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の他の児童と接する機会が少ない。	生活支援を重点に置いていること。	公園遊びの機会を増やす。
2	保護者同士の交流の機会がない。	保護者同士の交流を望まない保護者もいることを考えると、積極的に交流機会を設けることが難しい。	保護者参加型の事業所イベントを開く。
3	施設のバリアフリー化が完全ではない。	設計上、バリアフリー化が難しい場所がある。	保護者や従業者から見て、バリアフリー化が必要な箇所について、対応を考える。